

私の提案

障害のある人をチャレンジド(挑戦する人)と呼び、「チャレンジドを納税者にできる日本に」をスローガンに、ITを使った就労支援などに18年間取り組んできました。

納税者という誤解を受けやすいですが、単に税金を納める人ではありません。主権者であり、社会のメインストリームで誇らしく生きる人の意

障害者支援に関西パワーを

味を込めています。日本では障害をマイナストとらえて、「気の毒」と受け止めがちですが、その人の可能性に着目す



ることが抜け落ちていきます。そのため、福祉は弱者対策になってしまった。本当の福祉とは、弱者を弱者でないようにするプ

社会福祉法人「プロップ・ステーション」理事長 竹中ナミさん(60)

ロセスだと思っています。

重度障害のある娘(35)を持つ私は、関西人としての誇りを持っています。関西人は自分を笑うことができる。しんどい時もすぐにめげると言われて、それを笑ってみせる。「障害?それがどないしてん?」とお笑い精神のある関西人のパワーは、福祉分野でも財産だと思えます。

毎日新聞 大阪発行
★
120年